

春季号

その いずみの園だより 51



それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは愛である。コリントの信徒への手紙Ⅰ 13:13

基本理念

神と人々に仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする
①アメニティ(快適主義) ②ヒューマニティ(人間主義) ③ローカリティ(地域主義)

vol
ISO 9001認定取得



2002年3月28日
介護保険法及び
リハビリテーションサービス

社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団
介護保険総合ケアセンターいずみの園

〒871-0162 大分県中津市永添2744 TEL0979-23-1616(代)
http://www.izuminosono.jp E-mail:sogocare@deluxe.ocn.ne.jp

2011.4.25
IZUMINOSONO



いずみの園から八面山を望む



介護保険総合ケアセンター
いずみの園

施設長
富永健司

社会福祉法人九州キリスト教
社会福祉事業団常務理事

往復3100キロの

走行距離

2011年3月11日、午後2時46分、私は東京・芝大門近くのビルで会議中に大地震に遭遇した。たちまち、携帯電話は不通となり全ての電車がストップ、道路はノロノロ運転の車で溢れた。駅や街には途方にくれた人々が行き来し、コンビニから食べ物が一斉に消えた。日帰りの予定だった私は、浜松町駅で足止めとなり最終的に芝公園近くの御成門小学校に緊急避難、一泊となった。この頃は、テレビの被害速報で死者、行方不明、五百名超と報道していた。この地震が死者、行方不明二万人を超える大震災になるうとは、誰も知る由もなかった。

日が経つにつれ、東日本大震災の状況が明らかになり、阪神淡路大震災を超える歴史的な災害となった。現時点(4/14現在)では、甚大な被害の全容もまだ明らかになっていない。宮城・仙台市の施設では利用者34名が津波で死亡、岩手・陸前高田市の特養は津波で崩壊、40名が流され11名が行方不明。宮城・石巻市では老人保健施設で30名亡くなり、あるグループホームは津波に呑み込まれ全滅した。福島県内の老健施設は倒壊し、10名が生き埋めのままという。

地震の発生した4日後、仙台の施設長と電話が通じ、「米が無い、オムツも底を尽いた」と悲鳴にも似た情報が届いた。そこで、遂に私たちは決断した。いずみの園では阪神淡路大震災の後、1998年(平成10年)、防災委員会を設置し地震防災応急計画を策定、250人三日分の水、食料品、医薬品、介護用品などと発電機、ラジオ、工具類を防災備蓄倉庫に備えていた。4トントラックに満載した緊急支援物資は3月19日、大分県中津市を出発、翌20日には現地に到着した。往復、3100キロの走行距離だった。

多くの人命と財産を失われた被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興と安心した生活が戻りますようお願いいたします。

2011年度 いずみの園基本方針

「地域包括ケアアシストシステムの推進」 —いずみの園これまでの20年とこれから—

◎介護保険前10年「福祉元年」

世界有数の高齢社会が予測され始めた1989年(平成元年)、3合同福祉審議会において「今後の社会福祉のあり方について」が審議され、福祉は大きな転換期を迎えることとなった。この年、初めて将来の数値目標を設定した「高齢者保健福祉推進10ヵ年戦略」いわゆる「ゴールドプラン」が制定された。97年(平成9年)12月9日介護保険法が成立し、2000年(平成12年)4月に介護保険は正式にスタートすることとなった。

いずみの園では1978年(昭和53年)事業開始以来、社会のニーズに応じて積極的に事業展開を行った。特養100床、ケアハウス、大分県第一号のデイサービス、ホームヘルパー、訪問入浴、訪問給食など、特に在宅サービスに力を入れ今日の基礎が築かれた。この頃(99年、H11年度末)、職員数144名総収入7億5千2百万円であった。

◎介護保険後10年「多機能化、企業化」

高齢者介護を社会全体で担う介護保険制度は国民に定着し、国民生活に不可欠の制度となった。政府の規制緩和と民間参入により介護ビジネスの観点もあつて競争の時代となった。いずみの園は02年(平成14年)、クリニック、リハビリセンター、障がい者、アイ、障害者生活支援センター、エマオなど医療、障がい事業を組み込み06年(平成18年)には全国的にも例のない戸建有料老人ホームを完成、多機能化・総合化を実現した。また、かきせサポートセンター事業を開始し、地域包括ケアの拠点作りをスタートさせた。介護保険の主旨は「住み慣れた自宅で最後まで暮らせる」在宅サービスの整備充実にあつたが、施設が24時間介護の安心に対して、在宅サービスは断続細切れ

サービスで、とくに高齢者にとって夜間が不安であった。

いずみの園ではこの点にいち早く着目、2010年(平成22年)、夜間対応型訪問介護がスタートした。「利用者本位」で「継続的、包括的」な全時間対応のサービス、「地域包括ケアアシスト」の幕開けである。いずみの園はこの10年の間、経営基盤の拡大整備、総合化を図り、職員320名、総収入14億円に倍増(99年比)した。

◎これからの10年「地域包括ケアアシストの推進」

これからの10年は、日本がかつて経験したことのない、団塊の世代が後期高齢者にはいる「超高齢社会」を迎える。また今日、社会福祉法人が誕生して50年、福祉の転換を迎えてから20年、介護保険が発足して10年が経過し大きな節目の年となった。厚生労働省は「地域包括ケアシステムの推進」を打ち出し、在宅サービスの推進を目指す。より小さい生活圏域(中学校区)の中で「医療・介護・予防・住まい、生活支援サービス」を要援護者(高齢者、障がい者、児童)に包括的に提供するといふものである。

いずみの園では地域包括ケアの中心となる「小規模多機能居宅介護」「24時間地域巡回型訪問介護」の事業をすでに立ち上げ、さらなる展開を計画する。これからの10年、なかならず、これからの5年は法人にとって最も重要な期間と捉え、当法人の理念である「キリスト教の愛と奉仕の精神」を高く掲げ、これまでに貫いて進めてきた「ファミリー(快適主義)」「ヒューマニティ(人間主義)」「ローカリティ(地域主義)」のコンセプトをさらに強化していく。

組織図 (2011年4月1日現在)




- ### ◎重点課題
1. 基本理念、コンセプトのさらなる推進
 2. かきせサポートセンター事業の充実
 3. 「今津サポートセンターいずみ」の調査、研究
 4. 障がい児者事業の研究
 5. 関連事業の統括、法人本部機能の強化
 6. 児童養護施設「栄光園」の支援
 7. 中間管理職の育成
 8. ワークライフバランスの研究
 9. ドイツ・ドイツ事業団への職員派遣の実施

IZUMI NO SONO MULTI-SOCIAL WELFARE COMMUNITY

2011年度 各部署重点目標

介護保険総合ケアセンターいずみの園 

経営企画室	新規事業・関連事業の研究
総務部	
総務課	本決算・月次決算の分析とフィードバック
栄養課	新メニューの研究・開発
いずみの森	ご利用者、ご家族、待機者への情報発信
研修課	職員に向け創立の精神とキリスト教についての学び
カウンセラー室	スピリチュアルケアの習得と実践につとめる
医療事業部	
クリニック	一般外来の拡大を図り、地域の方への暮らしの安心の提供
リハビリセンター	①ケア・リハビリテーションの発展的取り組み ②本質的なサービスの充足化と地域包括との関係強化
特養事業部	
相談課	①家族面談の実施 ②短期利用者状況等の的確な伝達
介護課	①自然排便サポート ②ユニット内行事年間120回
看護課	①看護の質の向上 ②業務改善
リハビリ課	①個別アクティビティ提案 ②摂食嚥下プロジェクトの発展

在宅サービス事業部		
デイサービス課	ふれんど館 ①サービスの質のさらなる充実 ②ボランティアの確保	
	ふれあい館 ①ケアの質の向上 ②地域の交流	
かきざサポートセンター	児童クラブピーター	①豊かな人間性の育成 ②安全無事故
	日中一時支援事業マルコ	①利用児童の定着 ②豊かな人間性の育成
	生きがいデイ北堀川	利用者の意向も踏まえ新規事業所へのスムーズな移行
	デイサービスかきざ	選ばれる事業所としてのサービスの質の充実、共生ケア
	いずみの園グループホーム(ベテルハウス)	楽しみのある生活支援
	かきざグループホーム(けやき・いちよう)	①ケアプランの評価と見直し ②外部評価項目の点検
	小規模多機能居宅介護寄り合いセンターいずみ	①顧客の確保と稼働率向上 ②カンファレンスを活用し、利用者のニーズ把握
	介護保険サービスセンター	①24時間365日の包括ケアシステム推進 ②医療機関等との連携強化
	障害者生活支援センターエマオ	相談支援の強化事業への取り組み
	中津市地域包括支援センター	①地域包括支援ネットワークの拡充 ②社会資源の把握と普及
シルバーハウジング事業	安否確認や日常生活の相談・助言・緊急時の対応	
訪問看護課	①利用者が在宅生活を安心して生活できる支援 ②他事業所との連携強化	
訪問介護課	①地域包括システムの構築 ②訪問介護員のレベルアップと職場環境の充実	
夜間対応型訪問介護	①態勢整備とシステムの構築 ②推進会議の充実	
ケアマンション聖愛ホーム 	①食事の別メニューの開発と提供 ②憩の広場開催	

2011年度 組織・人事関係

- 1 新設** (4月1日付け) ・経営企画室 **2 廃止** ・総務部企画課
3 変更 ・在宅サービス事業部中津市地域包括支援センターにシルバーハウジング事業を置く。

1 役職者 (4月1日付け)

- ・有馬 健 法人本部事務局長 兼 経営企画室室長
- ・藤本泰治 総務部部长 兼 医療事業部部长
- ・八田淳子 在宅サービス事業部障害者生活支援センターエマオ 課長
- ・松浪さやか 特養事業部介護課 主任
- ・前田裕司 特養事業部介護課 主任
- ・原田あずさ 特養事業部介護課 主任


2 一般職 (4月1日付け)

- ・未延政光 経営企画室 事務員
- ・白田博昭 在宅サービス事業部デイサービス課(ふれんど館) 介護員
- ・土岩美幸 医療事業部リハビリセンター 作業療法士
- ・小松告代 在宅サービス事業部デイサービス課(ふれんど館) 介護員
- ・河村美希 在宅サービス事業部いずみの園グループホーム 介護員
- ・笠原ひとみ 医療事業部リハビリセンター 看護師
- ・山崎有佳理 在宅サービス事業部デイサービス課(ふれんど館) 作業療法士
- ・金丸昌子 在宅サービス事業部デイサービス課(ふれあい館) 看護師
- ・野上恵子 在宅サービス事業部寄り合いセンターいずみ 介護員
- ・戸次広美 在宅サービス事業部中津市地域包括支援センター 生活援助員

3 新採用 (4月1日付け)

- ・松本温子 特養事業部介護課介護員
- ・中村明子 特養事業部介護課介護員
- ・松山由佳 在宅サービス事業部かきざグループホーム(いちよう)介護員
- ・小池和洋 特養事業部介護課介護員
- ・加来野星夏 特養事業部介護課介護員
- ・中野龍佑 特養事業部介護課介護員
- ・中尾光里 総務部栄養課管理栄養士
- ・橋本和宣 総務部総務課庶務
- ・宮本寛二 特養事業部介護課介護員
- ・富永義道 特養事業部介護課介護員

「外部評価受審報告」

いずみの園グループホーム 主任 横大路 明子 

いずみの園グループホーム(ベテルハウス)では2011年3月28日に認知症高齢者グループホーム外部評価が実施され、今年で5回目の受審となりました。外部評価とは、事業者が、その提供するサービス内容について、第三者の立場から客観的視点で行われる外部評価結果と、事前に行った自己評価の結果を対比し、両者の異同について検討した上で、外部評価結果を踏まえて総合的な評価を行うことにより、サービスの質の確保と向上を図ろうとするものです。これは原則として少なくとも年に1回の頻度で行われています。また、外部評価結果は「独立行政法人福祉医療機構」が運営する「WAMNET(ワムネット)」に掲載されます。

私達も、外部評価を受けることで、年々サービスの質が向上していることを実感しています。それは、具体的に、改善点、課題がはっきりすることで、改善に力を注ぐことができるからです。今後も向上心を持ち、より一層気を引き締め、職員一丸となり努力してまいります。

いずみの園広場

特養利用者(家族)の声



きぼう4番地
落合様ご家族 守口真弓様

薄桃色の桜が満開の季節となりました。毎日、面会に行く途中にある桜を眺めては幼い頃両親と桜並木を散策した頃が懐かしく思い出されます。

両親は、「いずみの園」に入所して父が5年目、母は8年目の春を迎えます。知人からは「毎日の面会は大変だね」と言われますが、私や私の息子にとって両親は心の支えであり一度も大変と思ったことはありません。逆に疲れ、落ち込んだ時は面会に行くことで両親の喜んだ様子を見て心が癒されます。

また、「いずみの園」スタッフの方々には日々細やかな介護をして頂き、更に面会の時には、明るい笑顔と元気な声で挨拶してもらい励まされる思いです。感謝しています。

家族としては両親に今後も穏やかな日々を過ごして欲しいと願っています。これからもよろしくお願い致します。



在宅(利用者)の声



デイサービスセンターふれんど館
ご利用者 福成巳代様

ふれんど館には私共夫婦で御縁を頂きました。病氣知らずだった主人が数度の手術を受け、歩行器に頼る様になり、ふれんど館に通うようになりました。私は不安でしたが2回3回と数を重ねる内に喜んで出掛ける様になりました。その主人も3年程前に亡くなりました。そして今度は私がデイサービスにお世話になる様になりました。

そこで私は、職員の皆さんの明るい笑顔と他のご利用者の生き生きとした元気な笑顔に迎えられました。主人と同じ様な身体状況の方もおられ、職員さんの微に入り細に入り良く行き届いたお世話を見て、感心すると同時に主人の事を思い出し、涙が出る程有難く感謝の念でいっぱいになりました。

今では私もこのふれんど館に御縁を頂いて良かったとつくづく思っています。最後になりましたが、私達は生きてい

るのでは無く神様・ご先祖様・廻りの皆様に支えられ生かされているという事を忘れることなく肝に銘じ、日々を感謝で明るく元気に過ごしたいと思っています。

